第1回

トルコ・ブルガリア・ルーマニア

東ヨーロッパ3ヶ国をめぐり異文化交流

記念すべき旅の始まりは、日本とトルコの震災からの復興を祈念する旅でもありました。それぞれ訪問国で人々の温かさに触れ、どんなに遠く離れた国でも心はいつもそばに感じることができ、今後のプログラムへの自信にも繋がりました。

学習プログラム

トルコ アンカラ大学教授による特別講義

このプログラムは、訪問国の関係者が講師として特別講義を行います。訪問国について歴史、文化や言語など映像等を用いながら分かりやすく教えてくれます。第1回目は、アンカラ大学のテキメン先生による講義でした。履修学生たちは熱心に講義へ耳を傾け、積極的に異文化について学びました。

伝統的なお菓子作りを通して身につくコミュニケーション力

「新・文明の旅」は、全学共通科目として開講されているため、本郷キャンパス・ふじみ野キャンパスの両学生がオンラインで受講します。日頃の授業では直接会うことのできなかった学生たちが、訪問国の伝統的なお菓子を一緒に作り交流を深めるとともに、コミュニケーションの重要性を再確認しました。

将来に役立つプレゼンテーション力

授業では情報収集をし、それに基づいて個人またはグループでプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは授業内に限らず、大学祭やオープンキャンパスなど学生、地域住民、大使館関係者などいろいろな方に発信します。プレゼンのノウハウが自然と身につき、自身の強みとなります。

スケジュール

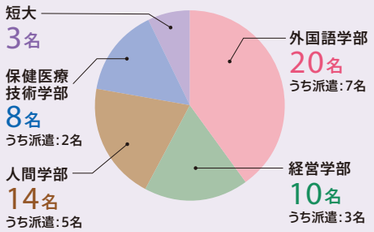
2011

- 3月：アンカラ大学教授特別講義
- 4月：履修学生募集 新・文明の旅 特講a
- 9月：新・文明の旅 特講b
- 10月：駐日臨時代理トルコ大使講演会
- 12月：トルコ東部大地震義援金 派遣学生選抜発表

2012

- 1月：東日本大震災被災地派遣チームボランティア
- 2月：新・文明の旅 派遣プログラム 2月29日～3月17日
- 4月：新・文明の旅 総合講義
- 10月：派遣メンバープログラム報告

参加学生数（全参加数：55名）



2012＋2013

Republic of TURKEY　Republic of BULGARIA　ROMANIA

「新・文明の旅＋（プラス）」ブルガリア交流プログラム ➡ P27

派遣プログラム

Turkey トルコ

アンカラ大学訪問

トルコ革命の父・アタチュルク大統領により、首都アンカラに創立されたトルコで最も伝統のあるアンカラ大学では、日本語・日本文学専攻学科の学生たちと交流を行いました。東日本大震災（3.11大震災）とトルコ大地震について双方のプレゼンテーションを行ったり、街を視察したりしました。滞在中はアンカラ大学生たちの家にホームステイし、トルコの生活を実体験しました。

プレゼンテーションの様子

Bulgaria ブルガリア

ソフィア大学、ヴェリコ・タルノヴォ大学訪問

1888年に設立された歴史ある総合大学で、約24,000人の学生が学ぶソフィア大学と、古城跡や中世の街並みが残る、森林に囲まれた自然豊かな美しい場所にあるブルガリアで2番目に大きな大学ヴェリコ・タルノヴォ大学に訪問。「新・文明の旅」プログラムでは2つのチームに分かれて、それぞれの大学で、日本の伝統的な作法を発表したり、日本食を一緒に作ったりと楽しい交流が行われました。

現地学生と豆つかみゲーム

Romania ルーマニア

アレクサンドル・イオン・クーザ大学訪問

ルーマニア東北部の古都ヤシにある、1860年に設立されたルーマニアで最も古く歴史深いアレクサンドル・イオン・クーザ大学。多くの国から留学生を受け入れているこの大学では、留学生たちの寮に滞在し様々な国の学生たちと交流をしました。日本語や日本文化を研究・紹介している「ひまわり」という団体に所属している人々と「ひなまつり」という行事で日本の紹介をし、地域住民とも触れ合うことができました。

個人プレゼンテーション後の集合写真

東日本大震災 被災地から世界（未来）を共に考える（国内フィールドワーク）

2011年3月に発生した「東日本大震災」、第1回「新・文明の旅」はこの大震災の1年後に実施されました。「東日本大震災」発生時は海外メディアでも大きく取り上げられていましたが、復興プロセスについてはあまり伝えられていませんでした。そこで、第1回「新・文明の旅」プログラムに参加していた学生たちで『「新・文明の旅」東日本大震災被災地派遣チーム』を作り、実際に被災地で取材やボランティアを行いながら、自ら見て体験した被災地の現状、そして、復興に向けて進み続けている未来への活動を、トルコのアンカラ大学、ブルガリアのソフィア大学、ヴェリコ・タルノヴォ大学において、それぞれの現地学生へスカイプを通じてリアルタイムに伝えました。短期間のうちに日本語教育の手法を学び、プレゼンテーションを行ったことで、被災地派遣チームの「伝えたい思い」がトルコやブルガリアの学生たちへ充分に伝わり、多くの学生たちが涙を流しながら対話できたことはとても有意義な時間でした。被災地派遣チームの熱意と努力は、「新・文明の旅」にとっても、彼らにとっても、価値ある成果だったと言えます。

被災地での調査・発信

Republic of TURKEY
Republic of BULGARIA
ROMANIA
01

Interview

第1回 新・文明の旅 派遣メンバー
保健医療技術学部 2013年度卒業

クチュクカヤ 瞳さん
（旧姓：佐々木）

訪問国では日本における理学療法士の役割を発表。現地の学生との意見交換は、医療を地球規模で考えるきっかけに。現在は、ブルガリアにも病院を持つ医療機関で理学療法士として活躍する。2020年8月にトルコ人の男性と結婚。

インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

“まずはやってみる” この経験が今も自分の後押しになってくれている気がします

訪問国で受けたカルチャーショック 日本をもっと良い国にしていくために

私がこのプログラムに参加した理由は、大学生のうちに何か自分を変えるチャンスがほしい、そんな気持ちからでした。実際にこの機会を経て変化した部分は、「まずはやってみよう」という意識が生まれたことだと思います。自分が全く知らなかった国々への渡航や、日本語が通じない人々との交流など、プログラムの中では挑戦を求められる機会が多々ありました。そのようなときに、まずはやってみないことには、その経験の先に待っているものには出会えません。間違えても修正して再チャレンジすればいい。それを実感できた旅だったからこそ、今病院で働いている中でも外国人の患者さんと接するときに、物怖じせずにコミュニケーションをとることもできているんじゃないかな、と感じています。

ホームステイや学生寮への宿泊では、現地の学生とご飯を一緒に食べ、授業を受けて、学校の後はみんなで遊びに行く、というその国の生活を経験できたことが楽しかったですね。真冬に路上で生活している人を見かける、常にシャワーが使えるわけではないなど、カルチャーショックも受けました。日本は本当に恵まれていて、便利な国。それを改めて実感するとともに、何か物足りなさを日本という国に感じるようになりました。それは何だろうと考えたときに、人と人の関係性の希薄さや孤独感、困ったときに助けを求めにくい環境など、生きづらさがあることに気づいたのです。こういった環境をそのまま過ごすのではなく、変えるためには自分自身が行動していかなければならないと思うようになりました。それが、家族をつくるという私の人生の選択にもつながりましたし、日本という国をもっと良くしていくために、自分は何をしていけばいいのだろうと考えるきっかけになったと感じています。

訪問国の大学に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました！

お答えいただいたのは・・・

「聖キリルと聖メトディー」ヴェリコ・タルノヴォ大学
日本語・文化センター長
カーテャ・マリノヴァ 先生

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか？

「新・文明の旅」プログラムは学生同士にとって役に立ったと思います。みんなが楽しみながら両国のことを学べたのは何よりだと思います。そして先生方の話し合いのきっかけになったことも良かったと思います。

Q2 貴学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは？

ブルガリアでは日本人と話す機会は珍しいです。特に本学の学生が同年代の人と話す機会はほとんどないので、交流できたのは大変良かったと思います。貴学の学生と先生方はブルガリア料理を味わったり、ヴェリコ・タルノヴォ市・アルバナシ村を見学したりし、楽しかったと思います。そして貴学の学生にプレゼンテーションをしていただいて、本学の学生が助手の役割をしたこともいい勉強になったと思います。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

貴学の学生にブルガリアや、ブルガリアの文化に興味を持っていただければ幸いです。これからも交流がうまく進んでいくことを願っております。

College Information

ヴェリコ・タルノヴォ大学

住所：Tarnovski str., 5003 Veliko Tarnovo, BULGARIA

ブルガリア北東部にある地方都市ヴェリコ・タルノヴォにある大学です。100か国以上の大学と協定があり、首都のソフィアを除くブルガリアの大学の中では最も大きな大学の一つです。